

警備先へ出動時に目撃の交通事故で、被害者らに適切な対応 濱田パトロール員に、東京消防庁志村消防署長から感謝状

機械警備による出動先近くで目撃した交通事故で、負傷者への適切な処置と二次災害防止用に発煙筒をたいて交通整理に当たった、東京システム事業部の濱田 昌哉パトロール員(23)に12月26日、東京消防庁志村消防署で、山崎建志署長から感謝状が贈られました。

12月22日深夜、濱田パトロール員は出動先での対応直後、近くの交差点で年配の男性歩行者がはねられたのを目撃しました。すぐ駆け寄り、路上に倒れている男性に呼びかけと瞳孔確認をしましたが、意識は無く耳から出血していました。事故に気づいた近所の人に119番通報を頼み、加害者の男性に負傷者の保護を頼むと、加害車両の発煙筒をたいて交通整理を行い、二次災害防止に努め、到着の救急隊と警察官に引き継ぎました。幸い負傷した男性はその日だけの入院で済み、翌日には退院しました。

濱田パトロール員は平成12年4月にCSPへ入社しましたが、学生時代に「東京消防庁上級救命資格」や「日赤救命員資格」を取得し、入社後も、会社の研修でも心肺蘇生法の訓練を積んでいたため「落ち着いて対応することが出来ました」と話しています。



「山崎署長から感謝状を受ける濱田パトロール員」